

(19) 日本国特許庁 (J P) (12) 実用新案登録公報 (Y 2) (11) 実用新案登録番号

第2550414号

(45) 発行日 平成9年(1997)10月16日

(24) 登録日 平成9年(1997)6月13日

(51) Int. CL <sup>4</sup>	識別記号	庁内整理番号	P I	技術表示箇所
B 6 5 D 33/25 33/22			B 6 5 D 33/25 33/22	A

請求項の数 2 (全 3 頁)

(21) 出願番号 実願平3-98182

(22) 出願日 平成3年(1991)11月28日

(65) 公開番号 実開平5-48748

(43) 公開日 平成5年(1993)6月22日

(73) 実用新案権者 000232520

日本特許管理株式会社

東京都文京区本駒込5丁目73番2号

(72) 考案者 稲垣 宏道

愛知県大山市字前田圃1-143

(74) 代理人 弁理士 大綱 弘

審査官 会田 博行

(58) 参考文献 特開 平4-253644 (J P, A)  
特開 平3-124563 (J P, A)  
実開 昭63-120849 (J P, U)  
実開 平3-35048 (J P, U)  
特公 平6-31097 (J P, B 2)  
欧州特許出願公開302144 (E P, A)  
欧州特許出願公開276554 (E P, A)

(54) 【考案の名称】 ジッパー付袋

1

(57) 【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 袋本体の口内にU字型に形成したジッパーテープを装着する際に、袋本体の裏側はジッパーテープの咬合具よりも下部においてシールを行い、袋本体の表側はジッパーテープの咬合具よりも上位においてシールを行った構造のジッパー付袋。

【請求項2】 咬合具よりも上位で行ったシール巾内にカットラインを設定して成る請求項1記載のジッパー付袋。

【考案の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本考案は、任意形状の袋（容器）の口内にジッパーを取り付けて開封後再度密封自在に構成した袋に関する。

【0002】

2

【従来の技術】 口内にジッパーを取り付けた袋としては特開平1-226556号公報に記載されているものが公知である。この公知例の袋は、袋の口内にU字型に形成した所謂ジッパーテープを突き合わせるようにして一部を挿入し、予め袋の表又は裏側の一方のみをシールしておき、内容物を充填した後に未シール側をシールして密封する構造であって、いちいちジッパーを開閉して内容物を充填し、再びジッパーを閉じるという手間と、この開閉によりジッパーが損傷するのを防止することができるといふ点において効果が認められている。

【0003】

【考案が解決しようとする課題】 しかし、上記袋の場合、内容物を自動充填する際、袋の口に近い部分をハンガーで挟持していることから、未シール部分をあとでヒートシールしようとした際、このハンガーが邪魔してヒ

BEST AVAILABLE COPY

(2)

実登2550414

ートシールバーが作動しないという問題がある。勿論、ハンガーとヒートシールバーの作動範囲に十分なゆとりをもたせれば問題ないが、このようにすると、用途によっては袋の口の部分に無駄なスペースが生じて資材（フィルム）の消費量が多くなるばかりでなく、自動機が大型化すると共に袋の体裁も良くない。

【0004】本考案の目的は、資材の利用に無駄がなく、自動機を小型化できると共に体裁の良いジッパー付袋を提供することである。

【0005】

【課題を解決するための手段】本考案に係るジッパー付袋の構成は次のとおりである。

【0006】袋本体の口内にU字型に形成したジッパーテープを装着する際に、袋本体の裏側はジッパーテープの咬合具よりも下部においてシールを行い、袋本体の表側はジッパーテープの咬合具よりも上部においてシールを行った構造のジッパー付袋。

【0007】

【作用】ジッパーテープはU字状に折り曲げられ、かつその咬合具は閉じた状態で袋本体の口内に突き合わせるようにして対向せられ、あらかじめ袋本体の裏側のみが下部においてヒートシールされる。次に、未シールの袋本体の表側が開放され、ここから内容物が投入される。次に、袋本体の表側の上縁又はこれに近い部分であって、咬合具よりも上部において、ジッパーテープと袋本体の表側がヒートシールされる。なお、ジッパーテープの表側又はヒートシール部分には、ジッパーテープ又はこの内側よりも融点の低いプラスチック層を形成しておくことにより、上記ヒートシールに際して、ジッパーテープ同士がシールされないようにできる。或いは、ヒートシールではなく、あらかじめ塗布しておいた接着剤でシールするようにしても構わない。

【0008】袋の開封に際しては、袋本体の表側のシール部分か、又はこの上部においてカットする。このようにすると、ジッパーテープのU字型密閉部分が開放されるので、あとは咬合具を公知の手段で開放し、内容物を取り出し、再度密封しておく。

【0009】

【実施例】図1、図2に本考案に係るジッパー付袋を示す。1は袋本体にして、2はこの口、3はジッパーにして、このジッパー3はジッパーテープ4の内面に凹条と凸条から成る咬合具5を形成し、この中間で折り曲げてU字状に形成し、咬合具5を咬合させたまま袋本体1の裏側1bの上縁6'とジッパーテープ4の下縁4'を一部ラップさせて突き合わせ、ここでヒートシール7されている。そして、袋本体1の表側1aの上縁6はジッパーテープ4の上縁7と略同一高さまで未シール状態で延長されている。

【0010】図3～図6は上記袋に対する内容物の充填と密封シール工程を示すもので、図3に示すように袋本

体1の口を例えばバキュームで開き、図4に示すようにそこにホッパー8の口を挿入し、図5に示すようにこのホッパー8から内容物9を袋本体1内に投入し、次にヒートシールバー10、10'で袋本体1の表側1aの上縁6に近い部分とジッパーテープ4の上端であって、折り曲げ部に近い処を挟圧し、市してヒートシールする。この状況は図7に示されている。開封を行う場合には図7においてX-X'線部分をカットする。開封した状況は図8に示されている。但し、図8はジッパー3の咬合具5をも開放した状態である。

【0011】

【考案の効果】本考案に係るジッパー付袋は以上の如き構成から成り、次の如き効果を奏する。

【0012】a. 自動充填時に、袋本体の口に近い部分をハンガーで挟んでいても、未シール部分のヒートシールは咬合具よりも上部において行うので、ヒートシールバーの作動には全く支障がない。この結果、資材（フィルム）の無駄がない。

【0013】b. 自動機（充填機）を小型化できると共に生産性を向上させることができる。

【0014】c. 袋本体の表側はジッパー全体をその裏側に位置させてしまうために、ジッパーは裏に隠れ、袋は図2、図7、図8矢印方向すなわち正面から見た場合に全面広くなり、デザイン的にも優れたものとなる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本考案に係る袋の正面図。

【図2】A-A'線断面図。

【図3】袋の口を開いた状況の説明図。

【図4】ホッパーを袋の口に挿入した状況の説明図。

【図5】ホッパーから内容物を投入している状況の説明図。

【図6】袋の口をヒートシールする直前の状況の説明図。

【図7】袋の口をヒートシールして密封した状況の説明図。

【図8】袋を開封した状況の説明図。

【符号の説明】

1 袋本体

1a 表側

1b 裏側

2 口

3 ジッパー

4 ジッパーテープ

5 咬合具

6、6' 上縁

7 上端

8 ホッパー

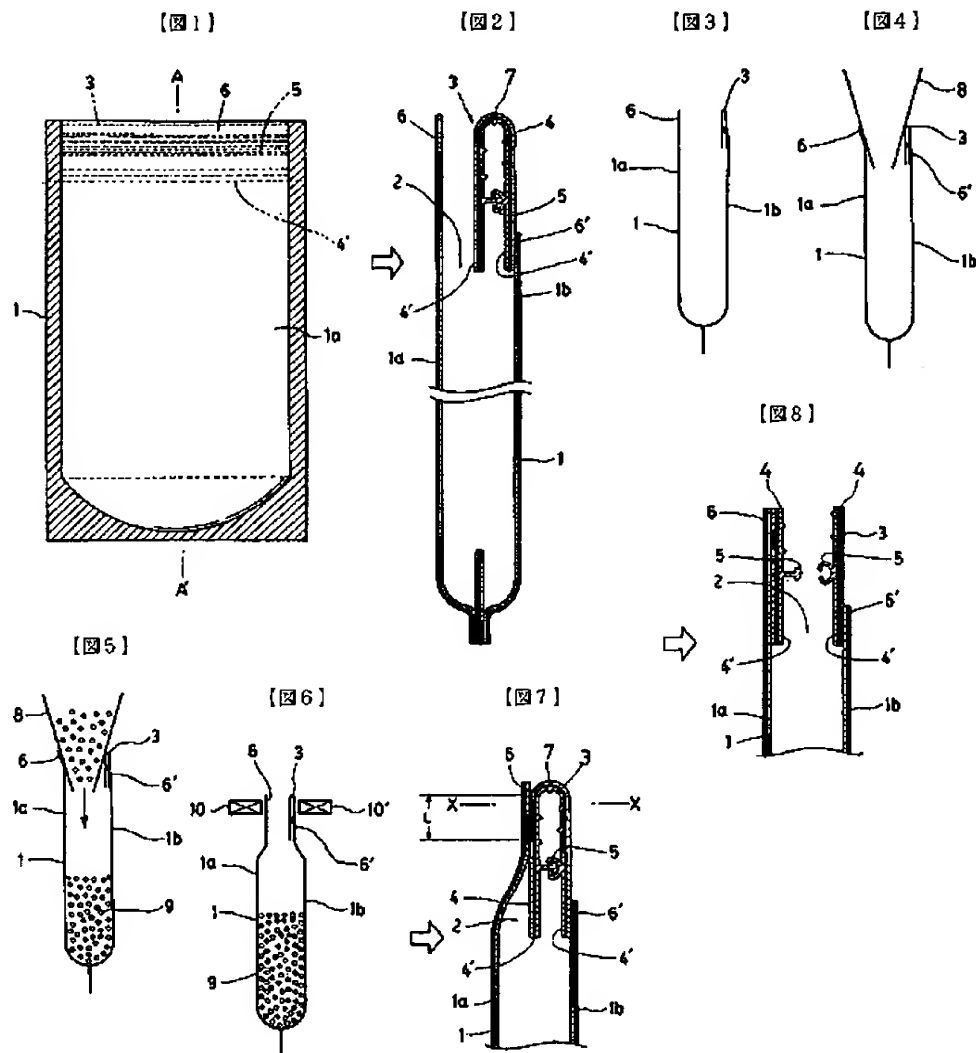
9 内容物

10、10' ヒートシールバー

BEST AVAILABLE COPY

(3)

実登2550414



BEST AVAILABLE COPY